

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内の景気は、一段と悪化している。

最終需要の動向をみると、公共投資と住宅投資がほぼ前年並みの水準となっているが、個人消費が弱くなっており、設備投資も下方修正の動きが続いている。

こうした中、生産は、受注の低迷や在庫調整圧力の高まりを背景に、大幅に減少しており、雇用情勢はさらに厳しさを増している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、所得環境の悪化や雇用調整が進む中で、弱くなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、主力の衣料品が低調なうえ、身回品や雑貨も落ち込んでおり、前年を下回って推移している。

スーパーでは、節約志向の高まりによる内食回帰の動きなどから、食料品は前年並みの水準で推移しているが、衣料品や身回品が不振なことから、全体では前年をやや下回って推移している。

(家電量販店売上高)

家電販売では、電子レンジや炊飯ジャーなどの内食関連商品が好調なほか、薄型テレビも、単価は下落しているが台数が伸びているため、前年を上回って推移している。一方、パソコンなどの OA 関連商品やエアコンなどの白物家電は弱めの動きとなっているため、全体では前年並みの動きとなっている。

(新車登録台数)

2月の新車登録台数は、普通車を中心に乗用車が前年を大きく割り込んだほか、貨物車も低調に推移していることから、全体でも前年を2割方下回った。

(2) 公共投資

2月の公共工事請負金額は、ほぼ前年並みの水準となった。

(3) 住宅投資

1月の新設住宅着工戸数は、ほぼ前年並みの水準となった。

(4) 設備投資

2008年度の設備投資計画(12月短観調査結果*)をみると、受注の減少や収益の悪化を背景に、製造業を中心に投資の絞込みや先送りの動きが広がっており、前年度を大きく下回っている。

*08/下期計画・前年同期比：製造業 67.6% < 前回調査比修正率 47.7% >、非製造業 38.1% < 同 15.6% >、全産業 65.4% < 同 45.0% >

3. 生産動向

生産は、受注の低迷や在庫調整圧力の高まりを背景に、大幅に減少している。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、海外需要の急速な落ち込みや半導体市況の低迷長期化などを背景に、大幅な減産を続けている。

(輸送機械)

完成車、自動車部品とも、世界的な自動車販売の落ち込みを背景に受注が急速に減少しており、減産幅を拡大している。

(一般機械)

半導体製造装置では、受注低迷から減産体制を継続している。建設機械部品では、海外需要の急減から、大幅な減産に入っているほか、工作機械も国内外ともに受注が急落しているため、減産を強化している。

(その他)

鉄鋼の線材は、世界的な需要の減少を背景に、操業度を大幅に引き下げている。一方、窯業・土石、木材・木製品は、公共工事や民間工事の減少による在庫の積み上がりから減産を強化している。この間、食料品は、ほぼ横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、製造業を中心に雇用調整の動きが一段と広がっており、さらに厳しさを増している。

1月の有効求人倍率（季節調整値）は0.41倍（前月：0.46倍）と平成14年8月（0.41倍）以来6年5ヶ月振り、新規求人倍率（同上）は0.62倍（前月：0.69倍）と平成13年10月（0.61倍）以来7年3ヶ月振りの低水準となった。

この間、雇用者所得は、所定外給与が大幅に減少していることなどから、前年水準を下回って推移している。

5. 企業倒産

2月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が8件（前月8件、前年同月7件）、負債総額が24億12百万円（前月14億22百万円、前年同月18億2百万円）と、件数は2ヶ月連続して1桁台に止まったが、負債総額はやや増大した。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、個人預金が堅調なうえ、貸出の増加に伴う法人預金の増加もあって、前年を上回って推移している。

貸出動向は、住宅ローンが頭打ちとなっているものの、地方公共団体向けが増加しているほか、法人向けも増加していることから、前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
